

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
--	---	--

【学校から】本年度は校内研修の中で「ETの時間」を設け、学級の気になる児童に対して、職員全体の共通理解、共通対応を図る場を設定してきた。その成果として、「児童生徒の尊重」の項目が高評価を得ていると思われる。また、日々の授業においても、他者の考えを尊重し、受け入れる「対話の授業」を行うとともに、授業のみならず、全ての行事等の中で、人権尊重の精神が培われるような活動を取り入れてきた。その結果「友達への思いやり」「道徳・心の教育の充実」の項目の評価が上がっている。一方1と2の項目で保護者及び児童の「1」評価が見れるという事実を真摯に受け止め、日々の教育活動で児童の心に響く言葉かけや、家庭訪問や懇談会を通じて、学校の取り組みを分かりやすく伝えていく必要がある。

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

【学校から】○授業作りの工夫に関して、児童・教職員、保護者とも「3」「4」の割合が大きい。また、ICTの活用に対しても同様で、その影響からか、意欲的な学習態度も児童・保護者・教職員共に「3」「4」の割合の占める割合が大きい。児童が互いに聴き合い、語り合う「対話」を中心とした授業を推進した結果であろう。その一方でそれでも勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在することを謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向け、個に応じた指導の徹底を図るとともに、「わかる」「楽しい」授業のを展開していく。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

【学校から】児童及び保護者の評価で「3」「4」を占める割合が多い。学校栄養職員による給食指導や、養護教諭による保健指導、PTA活動による健康づくりキャンペーンの成果と思われる。しかし、「1」評価に該当する児童、保護者もあり、今後さらに意識と連携を図りながら、効果的に取り組んでいきたい。

<h3 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	

【学校から】○年間指導計画に沿って人権教育を実施し、日頃から人権意識を喚起してきた。アンケートや教育相談の実施により、児童の思いを受けとめる機会を極力多くし、課題があった場合は、学年主任や生徒指導、コーディネーターなど複数体制で、早急に対応できるようにしている。一人一人の子どもを大切にしているという意識をもって教育を進めているが、少数ではあるが「2」「1」評価をしている児童及び保護者がいることは看過できない。より児童の側に立った支援を行えるよう、体制を整えたい。特別支援コーディネーターを中心にあらゆる機会をとらえ、相談体制をとっている。また、学校栄養職員、養護教諭、生徒指導なども児童の状況に応じて対応し得る。今後も保護者、児童の願いを吸い上げ、対応できる体制を継続していきたい。

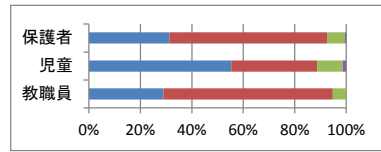
<h3 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
--	---

【学校から】○毎月の施設安全点検を複数体制で入念に行うと共に、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返し、子どもの事故防止に努めている。また、避難訓練を定期的に行い、緊急時に素早く安全が確保できるよう努めている。今後も安全点検・安全教育に努めたい。また、必要に応じて予算請求を行ってきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

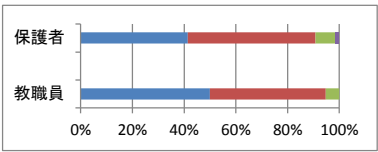
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



【学校から】○学校から保護者へは、学校便り、PTA総会、懇談会などを活用し、事あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式・集会等で伝えてきた。更にわかりやすく伝える努力を続けていきたい。
○教師も保護者も、子どもは楽しい学校生活を送れていると考えているが、わずかながら「2」「1」もある。楽しくない原因はどこにあるのか、つらい思いをしている子はいないか、確認しながら教育に取り組んでいきたい。

14 家庭や地域との連携協力

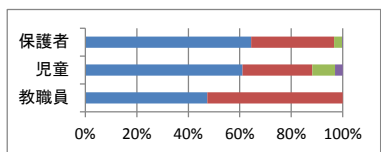
子どもたちは、学校に楽しく通っていますか。



⑧本校の教育

15 1

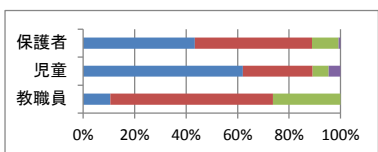
子どもたちは、学校に楽しく通っていますか。



【学校から】○15の項目において、「4」「3」の評価が80%以上を示している。一人一人の児童を大切にしたい取り組みの成果であろう。しかしながら「2」の評価をしている児童及び保護者がいることも看過できない。このことを真摯に受け止め、教育相談や日々の教育活動の中で、個々の抱えている課題をしっかりと見極め、「チーム学校」として、職員相互及び関係諸機関と密に連携を図りながら、適切な支援を行っていく必要がある。16項目については、児童及び保護者が80%以上を示している。毎月の生徒指導部会を開き実態を把握するとともに、年間を通して生活目標の中に「心地よいいさつ」の項目を取り入れ、共通理解・共通実践を行ってきた成果であろう。今後このいさつを地域に広めることができるよう、学校便りや保護者会などで啓発を図ってきたい。項目17に关しては9割の児童、保護者及び職員が「4」「3」の評価をしている。本年度は「主体的、対話的で深い学び」のある授業を研究の中心に据えて実践を行った。その結果児童は対話を通して授業の中で、他者に自分の考えを受け入れることで、自尊感情の高まりがみられるようになった。今後さらに、授業展開の改善を図り、自信をもって表現することの楽しさや面白さを様々な場面で体験できるような場の工夫を行ってきたい。

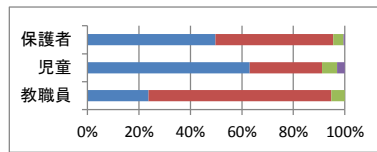
16 2

子どもたちは、前よりもあいさつができるようになったと思いますか。



17 3

子どもたちは、自分の心身の成長を感じていると思いますか。



来年度の具体的な取り組みについて

- 教育方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行っていく。
- 毎時間の充実のため教材開発を続けていくとともに、学びノートを充実とした学力充実とこの応じた指導、支援の工夫を行っていく。
- 本年度までの研究テーマを継続し、「学び合い」を柱に、確かな学力の向上と自尊感情の育成に努める。
- 全国学力学習状況調査、及び熊本市学力検査により、本校の児童の学力を分析し、きめ細かな指導工夫に改善に努める。
- PTAと連携を密にし、学校と保護者、地域が一体となった学校運営を心がける。
- 相談支援体制については、早期解決・改善を図るために、課題に応じてプロジェクトチームを編成し、複数体制で対応していく。

学校関係者評価

- 授業の様子から、子どもたちが生き生きと学校生活を楽しんでいる状況がよく分かる。
- 音楽会などの行事を通して、職員が一人一人の子どもに真剣に向き合っており、伸ばそうとしているのがよく分かる。
- 大雨や緊急時には職員が子どもの安全確保を最優先に見回り点検やパトロール、交通指導を徹底して行っており、保護者は安心して子どもを預けることができる。
- 今後もさらに、地域や保護者と連携をとった教育を推進してほしい。